

令和7年度鳥取市総合教育会議（第2回）会議録

- 1 日 時 令和7年11月17日（月） 13時30分 から
- 2 場 所 鳥取市役所本庁舎 7階 第2委員会室
- 3 出席者 〔構成員〕
市長：深澤 義彦
教育長：河井 登志夫
教育長職務代理者：前田 哲雄
教育委員：中井 英子
教育委員：谷口 なおこ
教育委員：住川 英明
〔市長部局〕
副市長：羽場 恭一
総務部長：塩谷 範夫
総務部次長兼総務課長 濱岡 直樹
〔教育委員会事務局〕
副教育長：徳高 雄一郎
次長兼教育総務課長：山名 常裕
次長兼学校教育課長：浅見 康陽
次長兼総合教育センター所長：狩野 司
校区審議室長：岡部 孝志
学校保健給食課長：蔵増 彩
生涯学習・スポーツ課長：浜田 哲弘
文化財課長補佐：加川 崇
中央図書館長：中島 泉
学校教育課参事（こども発達支援センター所長）：平戸 由美
教育総務課長補佐：前田 英樹
〔傍聴者〕 なし

4 会議次第

次期鳥取市教育振興基本計画の素案について

○次期基本計画の素案について

○基本計画に盛り込む令和8年度重点施策について

5 会議概要

1 開 会 13時30分

開会（副教育長）

2 市長あいさつ

失礼いたします。本日は大変お忙しい中、本年度第2回となります総合教育会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

教育委員の皆様におかれましては、日頃より、本市教育の充実発展に多大なるご尽力を賜っておりまして、改めまして、感謝を申し上げます。また10月6日に新しく教育委員にご就任をいただきました住川委員におかれましては今回初めてご出席をいただく総合教育会議でございますが、どうか今後とも本市の教育行政の推進に向けてお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、現在策定を進めております来年度からスタートする予定の第12次鳥取市総合計画につきまして前回8月21日のこの総合教育会議におきまして委員の皆様から貴重なご意見を賜りました。

またこの計画案につきましては10月に実施をいたしました市民政策コメント、パブリックコメントを始め、様々な機会を通じて市民の皆様から幅広くご意見をいただいているところでございます。

その内容をしっかり計画に反映をさせて、令和8年度の施行、スタートに向けて、しっかり取り組んでまいりたいというふうに考えております。

本日の会議では前回骨子案についてご議論をいただきました次期鳥取市の教育振興基本計画につきまして、更に詳しく、今後5年間の具体的な取り組みや目標とする指標などについてお示しをした素案について、まずご説明をさせていただきたいと思っております。どうか忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、開会にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。

3 議題

(1) 次期基本計画の素案について

各担当課（素案に基づき説明する。）

【質疑】

(中井委員)

まず1点です。私が教育委員になりまして、生涯学習・スポーツ課だったりとか、文化財課だったりとか、大人も一生この学ぶ機会っていうのがたくさんあるんだなっていうのを感じております。鳥取の歴史を学んだりとか、スポーツをしたりとか、文化財に触れたりとかっていう機会は大人も、学校・生徒じゃなくてもいろいろ学ぶ機会をいただいているんだなっていうのを感じているんですけども、就学前のこどもたちの教育っていうのに関して少しちょっと記載が少ないのかなというふうに思ったところです。そういうような対応っていうのは市の教育委員会としてはどのような対応を考えておられますでしょうか。

(深澤市長)

はい。就学前教育の記載記述がちょっと少ないんじゃないかというところ。どな

たが良いでしょうか。

(中井委員)

多分、ブックスタートとかの赤ちゃんに向けた教育っていうようなこともしておられるのではないかと思うんですけども、幼稚園や保育園との連携ですとかそういうようなことがあれば教えていただきたいなと思います。

(こども発達支援センター所長)

ご質問ありがとうございます。就学前の取り組みということで、おっしゃってくださったブックスタート事業、検診のとき、例えば6ヶ月検診ですとか幼児期から絵本に触れ合うとか、親子の遊びを通して親子関係を育むっていうようなところは、保健分野で取り組んでいっているところです。

総合計画の中には、教育基本計画以外のところのいろいろな分野での、先ほど申しました取り組み内容は盛り込んであるかとは思いますが、確かにご指摘の通りこの計画には少し就学前となると、何となくこども発達支援センターが書いている部門だけなのかなと思われるのかなと、思ったところでございます。どんなふうに盛り込むのかっていうことも今後協議をしていかないといけないと、個人的には感じたところでございます。

(深澤市長)

はい、ありがとうございます。いかがでしょうか。

(中井委員)

ありがとうございます。その件につきましてはよくわかりましたのでまた今後も引き続き検討いただければというふうに思います。

それとですね、施策3の②(22ページ)に校区のことがありましたけども、あり方を考える検討組織の設置が今のところ8校で、これを22校に目標ということですが、これもやはり少子化が進んでおり、学校間で生徒数の格差がかなりあると思いますので、校区再編はすごく大きな問題というふうに思っております。まずは地域の方の考えをお伺いするというので、あり方を考える検討組織を立ち上げられるということを本当に早急に対応していただきたいなというふうに思っております。

この件に関しましては以前にもちょっとお話したんですけども、多分これは市長部局の方との連携になるのかわかりませんが、校区を再編した後のことも考えながら、学校の跡地が何になるのかですとか、どこに学校を統合していくのかっていうようなことを考えたときに、やはり大きく鳥取の都市計画というものと関わる内容だと思いますので、そういうようなところとの連携を一層深めていただきたいというふうに思っております。それは希望ということになりますけれども、そういう連携をいろいろしていただきたいと思うところがいくつかありまして、文化財課が観光のことなんかに触れておられたと思うんですけども文化財を修復することは観光との関わりも出てくると思いますし、その課だけではなく、やはり大きく市長部局の方とも連携をとりながら、やっていただきたいなという思うところがありました。

あと、図書館のことについてなんですけれども、少し前にNHKのクローズアップ現代で図書館のことをやっていました。集客がもう何倍にもなってるようなところの図書館の

内容の番組を見まして、やっぱり本当に図書館ってすごく人を集めることができる公共施設の最も大きなものなんじゃないかなというふうに思っています。今リ・デザイン会議の方でも駅に図書館を入れるのかどうかというようにも検討しておられるのかどうかわかりませんが、そういったところも含めまして、鳥取の賑わいをつくるっていうような観点とも関係する内容になってくると思いますので、そのようなところも市長部局との連携ということも出てくるのかなというふうに思っております。各部署との連携っていうことを、ますますしていただきたいなというような内容です。

(深澤市長)

ありがとうございました。各部局での連携ということのひとつのキーワードにご提案というか、ご質問いただいたように思います。あと校区再編についても、都市計画の面で、あるいは図書館についても、まちづくり等の視点からというようにこととお話いただいたように思います。それぞれ何かお答えしていただけるようなものがあればいかがでしょうか。

(校区審議室長)

校区再編の関係でということでご質問いただいたところは、統合等したところでの学校をどう活用していくか、あるいは地域づくりをどうしていくかということになるかと思えます。市長部局等の連携をということでごございましたけれども、今例えばやってるところの例でいたしますと、資産活用推進課という課が施設をどう活用するかというようなサウンディング調査というか、民間だったらどういうふうにするかという調査をしてるんですけど、廃校となる予定となっている学校については、そういったものも活用しながら、うまく活用を進めるような連携というのもちよっと図っていくということも実施させていただいてますし、あとその廃校になりそうなところにつきましては市長部局とも情報共有しながら、上手に廃校というか施設の活用をというふうに視点をおきながら、連携を進めさせていただいているところです。例えばという例でご説明させていただきました。以上です。

(中央図書館長)

図書館は人を集めることができる公共施設ということで、中央図書館も1日に平均すると約1000人弱なんですけれども、その方が来ていただいているような施設になっています。駅に移転という話も出ておりますがまだ決まったことではありませんので、もしも決まったときには、市長部局とも連携しながら、鳥取の賑わいに役立つような施設にしていこうと考えます。以上です。

(深澤市長)

はい、ありがとうございました。いかがでしょうか中井委員さん。よろしゅうございますか。

(中井委員)

はい。

(深澤市長)

その他ご意見ご質問等ございましたらお願いしたいと思います。

(前田委員)

何点かお願いします。副題の「未来へかけるとつとりのちから」は、いいなと思いました。確かに正確ないい言葉で表現されていて、発信力がかなりあると思いながら聞かせていただきました。

質問のひとつは、10 ページ 11 ページに、子どもたちの意見を計画に反映ということで、今回からということで挙がっていますが、これはもう決定ですか。これからまたいろいろ見直しされる内容でしょうか。

(山名次長)

はい、この意見については、既にこども未来会議でこどもたちが議場で質問して、既に回答も公開しているものですので、こういった内容を引用した形で、載せさせていただこうかなというふうに考えています。

(前田委員)

わかりました。この漢字使うのかな、と思う箇所があったので。例えば小学校の低学年の子が 10 ページの一番下、「小学校低学年でも安全に泳げるプールを作ってほしい」のプールを「つくる」というのはこの字かなと思いました。

(山名次長)

そのあたりはもう一度確認します。

(前田委員)

「民間のスイミングスクールの活用や老朽化」、小学校の低学年に老朽化という言葉を使って説明されたのでしょうか。もし見直すことがあればお願いします。子どもたちがすごくいい質問しているなと思いながら読ませていただきました。

もうひとつは、それぞれの内容について、具体的な基本方向とか具体的な取り組みがあって、指標や数値目標が挙げられているのですが、これについて僕の理解でいいのか確認させてください。以前から数値目標、例えば全国学テから数値化する場合に、4 択の中の肯定的な二つを合計したものを数値目標として挙げるが多かったんですけども、確かに、こういう市全体の評価をする場合には、それでいいのかなと思うようになりました。

各学校が、同じ学テの結果を分析して、自分の学校の課題を明確にして改善策を見つけていくときに、「そう思う」という子どもを育てなければ駄目で、「どちらかといえば」も入れた数字で大体できているなというような学校の評価では甘いだろうと思ってきました。ですが、市全体でやる場合は傾向を見ているという捉えで、このやり方でいいのかなというふうに理解していますが、この理解でよろしいでしょうか。

(学校教育課長)

指標について、定例の教育委員会でもお話をいただいております。言われるように学校はやはり「当てはまる」という子を育てたいという思いでいますけれども、言われたように市全体ではやはり傾向を見ていくということで、第 2 期のところも同じようにこの二つで目標値を定めておりましたので、第 3 期も引き続き、その傾向を見るということできたいなというふうに思っております。

(前田委員)

僕もそう理解し納得しているところです。

「基本的な方向」ですとか「具体的な取組」については、どの「推進施策」の説明もよくわかりました。ただ、指標と結びつけて見ていくと、いろんな具体的な取組があるけれども、指標としては1つのことが多くこれが達成できればあとの取組も全面展開するだろうという指標のあり方に思われて、やや無理があるのではないかと感じています。担当の方も指標を決められるときに、すごく苦労されたんじゃないかなと感じています。

個人的には、指標はもっとあってもいいように思いました。それぞれの具体的な取組内容はすごく大事なことばかりで、ある程度それぞれに対応するような指標がある方が、のちのちの評価、振り返りをする場合にも、また一般の人が見てもわかりやすい指標になると思います。

県の指標を見ても、もう少ないところで3個、多いところは10以上、指標の数値目標が挙げられています。

それから個別の指標についても2、3教えていただきたいところがあります。例えば先ほども出ていましたが、22ページの学校のあり方の検討のところの指標です。説明に令和7年時点において、小規模校に該当する市内小学校・義務教育学校を対象とした検討組織を立ち上げた学校の数とあります。あえてここに小規模と入れたことについておたずねします。

(校区審議室長)

ありがとうございます。正直悩んだところはございます。その中で、特にまず記載する小規模校というのは、適正規模・規定配置の基本方針の中でクラス替えができない学校に対してということをお小規模というふうなとらえ方をさせていただいているところでございます。

その中で特に、以前の計画の中でも見ましたけど、やっぱり大規模のところと小規模のところの動きの違いが大きくあったのかな、違いがあったのかなという中で、特に今鳥取市内の方では児童数が100を下回るような学校が11校存在しているというところがございますので、今、現状においてそのところ特に今回の計画の中では重点的にやっていきたいという思いでの、この数値を出したというようなところでございます。おっしゃるように複数の中で、広い面的なもので捉えるという指標もあるんじゃないかということもありますけど、迷った結果として、まずは小規模のところを進めていこうという意味合いで提示させていただいたという内容でございます。以上です。

(前田委員)

はい、そういうことかなと思いましたが、例えばその指標でしたら、小規模校でこのぐらい、中規模校だとか、その他ではとかですね、それぞれに応じた数値があってもいいのかなと思いました。小規模だけ挙げてあるということに対して、学校の在り方検討は小規模のことと解釈されるのはどうなのかなと思ったところです。

併せて、例えば30、31ページの人権教育のところだと、「自分に良いところがあると思う」に集約されているわけですが、例えば表にあるような「いじめはどんな理由があってもやっちゃいけない」ということに対しての割合もあってもいいのかなと感じてい

ます。

それから 26、27 ページの放課後児童クラブの数値目標が待機児童がゼロということについてです。今回からゼロというふうにされたと思うのですが、去年までは資格のある指導員についての数字だったと思いますけども、これも両方あっていいと思います。

多くが複数の指標になれば、すっきりするような印象を持ったところです。以上です。

(深澤市長)

これにつきましてもいかがでしょうか。数値目標がひとつでなくて、複数あった方がいいのではないかとというような。放課後児童クラブとか、それから小規模校のあたりですが。

(教育総務課長)

指標・目標値の全体的なところについては、前田委員さんのおっしゃられることもよくわかります。今後、この指標・目標値とか、必ずしもこれが、これで全てが測れるものではないっていうのを前提でひとつで作っているところではあるんですけども、どういった出し方ができるのかっていうのはちょっと今一度考えてみたいとは思っております。

(前田委員)

検討していただければということで。

(深澤市長)

よろしゅうございますか。検討していくと。その他ございますか。

(住川委員)

では失礼いたします。まだ十分にこれまでの骨子からの積み上げを理解してないところがございまして、現状についても同様に存じてないところも多いと思いますのでまた教えていただきたいと思うんですが、今私自身が一番やっぱり懸念してるのは、学校におけるやはり子どもたちの、その健康上の課題っていうのが、そういうことが気になっております。

ですから、直接的には基本方針Ⅲの③、45 ページの内容になると思うんです。つまり子どもたちの視力でありますとか、健康上の諸問題について現状をきちんと把握して課題を拾い出すっていう、そういうことがやはり求められているだろうというふうに思うんですが、そのベースになっておりますのは、やはり今度は基本方針Ⅰに関わるような学習上の環境がですね、やはりそういう健康問題に大きな影響を与えてるのではないかと、思うんです。国の施策のGIGAもファーストステージからセカンドステージに移行しようとしていて、理解普及の段階からも、今度はICTの利活用でありますとか、AIも含めた利活用、道具としてそれを使っていくという段階に入っていくわけですが、子どもたちが一体どのくらい学校でICTを学習上使ってるのか、あるいは日常生活の中でどのくらいICTに触れたり、あるいはゲームといった領域で、そういったものに触れたりっていうことをしているのか、おそらく非常に多くの時間を割いて、それによってあるいは睡眠時間が少なくなって健康を害したりとか、そういう部分が非常に大きいのではないかと懸念しています。

ですから、健康上のことだというふうにわかることはもちろん必要なんですけども、同時に、やはり学習上のいろんな事柄も今急激な教育環境の変化で関わっているっていうことがあると思うので。そういう内容を例えばきちんと課題として拾い上げて、検証しながら、そ

の問題を解決していこうっていう、そういう決意というんですか、把握っていうものがやはり喫緊の課題かなというふうには思っているんですが、その点、どこでそういうことを検証していこうということがこの中に含まれているかどうかっていうのも教えていただきたいなと思うんですけれども。

(深澤市長)

はい、ありがとうございました。この案の中でどのあたりに触れてあるのかというご質問だったと思いますが。

(学校保健給食課長)

ご意見ありがとうございます。今はですね、45 ページのところ、確かに課題のところには ICT の普及による様々な影響というのは課題の中では出させてはいただいているんですが、そういったものをどういうふうにかどもたちの健康についていうところまではちょっと今この中では記載をしていない状況です。もう一度ちょっとこの中身の方を検討させていただいて、あと ICT を活用している担当課とも確認しながら、ちょっと取り組みを考えてみたいと思います。ありがとうございます。

(深澤市長)

はいよろしゅうございますか。

(住川委員)

ありがとうございます。地域の行政の中ではやはり使用時間数を厳格に決めたりとか、そういう動きも報道で出たりしてましたので、全国的にも結構今関心が高まっているところだと思いますので、ぜひまたご検討いただければと思います。

あと、文化財のことに関係してですが、基本方針Ⅱ、推進施策 3 のところに該当するのことは思うんですが、文化財について、つまり物の保存活用については、ここでも詳細に触れられていますので、その通りだと思います。非常に大切な遺跡でありますとかそういうものが多い地域だなということを改めて感じるわけですが、例えば伝統文化という言葉もつかってございますが、「もの」ではない「こと」ですよね。ですから祭りでありますとか、あとは地域の特色を生かした事業、そういう行事等ですよね。例えば西郷なんかは工芸祭りを熱心にやっておられるということがありますけども、文化財はすごく見えやすいんですが、同時にやはり文化そのものに関して、例えば、こどもと大人がその場で十分交流を深めていくとか。

こどもたちに伝統的な文化の大切さを参加する中で伝えていくとかそういったことを教育行政として支援するようなそういった取り組みもやはり必要なのかなと私自身は思っているんですね。そのとき、例えば公民館等がそのセンター的な役割を果たしていけるような公民館であってほしいというふうに思います。学校も、コミュニティスクールのシステムの中で、当然そのことは関わっていくとは思いますが、やはり地域が率先してっていう部分もあると思います。そういう内容が実際、この 36 ページ以降のところには、ちょっと見当たらないような気がしたもんですからその点も教えていただけたらと思っております。

(深澤市長)

はい、ありがとうございました。文化そのものというような36ページのあたりの記述についてですが、いかがでしょうか。

(文化財課長補佐)

地域の文化といったことでしたので、伝統芸能の公開とか例えば麒麟獅子とかであれば、鳥取市に広く、たくさん分布しているようなそういった伝統行事がありますので、文化財課だけではなくて市長部局の文化交流課の方と連携を図りながら進めているところでして、具体的にこの中では、書きぶりとして、38ページの一番上の段のところに、文化財の公開や説明会の開催というところの中に、伝統芸能についても関係団体等と協力しながら開催していくというふうに記載しております、この中で市長部局とも連携も図りながら進めていくということで、こういう書きぶりとしてさせてもらっております。もう少し具体的に市長部局であるとかですね、公民館とかそういったところを出すかどうかというのは検討させていただければというふうに思います。

(住川委員)

ありがとうございます。やはり子どもたちの体に残っていくのは体験を通じてということがあると思いますのでぜひそういうところを使って伝統の継承ということに取り組むということで、検討いただけたら嬉しいなと思います。以上です。

(深澤市長)

はい。ありがとうございました。その他ございますでしょうか？特によろしゅうございますか。

(谷口委員)

最近私が気になっていることを、質問とかではないかもしれないんですけど、子どもの貧困について、最近すごく考えることがあるんです。資料の6ページの⑦の子どもの貧困というところで、12.6%が就学援助率ということで、貧困率ということになるのかどうか、そうなんですかね。特にひとり親家庭の貧困率は高い水準にありますというところも含めてなんですけど、お子さんが体の変化に合わせていろいろ物品が必要になったりとか揃えられないとか、そういうのが学校で補助してもらえらる状況であれば、すごく子どもが安心して学校に行けると思うんです。

それは給食に関して、最近保護者の方からも、そういうことについて話すことがありまして、私たちの子どもの頃は毎日デザートが、くだものがあったりしたんですが、最近本当にデザートがないということで、それは何でだろうねっていうことを話したときに、給食費が、物価高騰とかもあるし、多分衛生的に、前はリンゴが切ってあったりバナナが切ってあったりしたんですが、切り口からばい菌が入るとかね、なんかそういうものもあるのかな。子どもの頃の食生活が大人になってからも響いてくるのかなと思っています。給食で果物を食べなかったりする子が増えていくと大人になってからも果物を食べなくなるんじゃないとかそういう心配はすごくどのお母さんも心配されていると思います。家でご飯のあとに出すって言っても、やっぱり1日1回とか。本来なら家庭でちゃんとすべきだってことはわかってるんですけど、給食でもそういうのを出してほしいねと話をします。そういうときに、給食費が上がるから、払えるご家庭はいいけど払えないご家庭

のことを思って安くすませるって感じで抑えていかれるのであれば、私はそういうところにこそ、税金使って、こどもたちは未来の宝だと思ってますので、こどものために、給食費にかける費用をあげてもらって、1日1回給食でいい具合な栄養が取れるようにしていただきたいなというふうに思っています。

(学校保健給食課長)

まず、最初におっしゃられた課題のところですけど、就学されるのにかなり費用とかが苦しいご家庭につきましては鳥取市の方も就学援助というのをしております、学用品であったり、それこそ新入学児童生徒さんの学用品もですし、あと修学旅行費など様々な、今でしたらオンラインの、自宅でタブレットで宿題とかされるときにオンラインの費用とかも、支援をさせていただいてるところですしこちらの方は引き続きしていきたいと思えます。

あと給食費の関係です。確かに今、物価がかなり上がっております、うちの方は保護者の方からいただく給食単価というのは変えずにやってきております、ここ二、三年ぐらいすごく急激に物価が上がってきて、確かにデザートとかがちょっと少なくなってきたはいるんですが、例えば今年度ですと、国の交付金を活用して、県産の牛肉を給食で出せるようになっていうのをさせていただいたりとか。あと県の補助事業、地産地消の事業なんですけどそちらを活用して、実はイチゴのジェラートとか梨のジェラートというのを、生産者の支援も含めてさせていただいてるところですし、給食費自体も公費負担というのをさせていただいてるところです。

引き続き、しっかり栄養価は担保して作っておりますので、こどもたちが楽しいなと思ってくれるような給食になるように、これからも続けていきたいと思えます。

ちょっと生のデザートについては、基本的に給食火を入れるようにしてますので、火を入れたもので例えばフルーツ白玉とかジェラート、ゼリーとかというような形でさせていただいておりますのでそこはご了承ください。

(深澤市長)

はい。ありがとうございます。よろしゅうございますでしょうか。その他ございますか。いろいろこれ、あるかなと思いますけれども、とりあえずいろいろご指摘やご提言もいただきました。それではとりあえず、現在の段階ではこの件についてはご了承くださいということよろしゅうございますでしょうか。また事務局の方でいただきましたご意見等をもとに変更させていただきたいと思えます。

(2) 基本計画に盛り込む令和8年度重点施策について

徳高副教育長（資料に基づき説明する。）

【質疑】

(中井委員)

文化財課の部分で、こちらの方は令和8年度の重点施策としては「石垣等の保全に努めるとともに二ノ丸三階櫓台復元に向けた整備計画の策定や保存活用計画の策定、中ノ御門周辺整備の実施設計を行う」ということですが、これは文章としては盛り込まないの

でしょうか。

(文化財課長補佐)

盛り込まれるのは計画の方ということでしょうか。

(中井委員)

どこの部分にこれは盛り込まれているという認識でしょうか。

(文化財課長補佐)

この内容については38ページに記載しています。3番目の観光客など多くの人が来訪する、歴史と文化の薫りに満ちた活力あるまちづくりに貢献しますというところの中に、史跡の整備であるとかそういったものの具体的な取組、下から2行目ですかね。指定文化財の整備というところで、鳥取城跡、青谷上寺地遺跡等の指定文化財の整備や修理を計画的に進めますというところの中で、盛り込んでいるところです。

(中井委員)

これのここに盛り込まれてる内容がこれだっていう話ですか。わかりました。そうするとこの重点施策っていうのは課がそれぞれにしていって感じなんですか。

(副教育長)

素案はできているんですけども、具体的に令和8年度には、どのような重点施策があるのかということを委員の皆様にお示しするためにこの資料を作成しまして説明させていただいたところでございます

これは結構具体的に細かく実際にこれから予算要求に向かう内容のものをピックアップさせていただいて、ご紹介させていただいたというところでございます。

(中井委員)

では予算をつけるにあたってというような内容ですかね、これは。

わかりました。以上です。

(深澤市長)

その他ご質問等ございましたらお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。新年度予算の関係はまだちょっと未定な部分がありますので、これからそういう時期になるというふうにご理解いただければと思いますが。

(中井委員)

重点項目がすごく大事なことがたくさん書いてあるので、それを文書に盛り込まれた方がいいんじゃないかというふうに思ったのでちょっと質問しました。ここはまだ未確定な部分というかこれからの、次年度の内容ということで理解させていただきました。

(深澤市長)

その他いかがでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。現時点ではこういうことで、新年度予算に具体化をして進めていこうということでもありますのでまた何かお気づきの点がございましたらお願いしたいというふうに思います。それではこの件につきましては、とりあえずご了解いただくということでよろしゅうございますでしょうか。

(1) 業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について

学校教育課長（資料に基づき説明する。）

(深澤市長)

はい。ありがとうございました。これにつきましては、次の第3回の総合教育会議でまた詳しくご報告をされるということですね。

(学校教育課長)

はい、そうですね。

(深澤市長)

ということでよろしゅうございますでしょうか。その他、事務局の方で何か。

(教育総務課長補佐)

事務局から今後の日程についてご案内いたします。本日いただきましたご意見を素案の方にさらに反映させていただきまして、12月に市民政策コメントを実施したいと考えております。その中で市民の皆様より意見を募集する予定としております。その後次回総合教育会議を来年の2月に開催をしたいと考えております。そこで最終案をご審議いただきたいと考えておりますのでまた日程調整のご協力をよろしく申し上げます。以上です。

(河井教育長)

各委員の皆様方、いろいろご意見ありがとうございました。

私の方から1点だけ。連携という言葉が今日いろいろいただきました。例えば校区再編であれば、まちづくりに関して、とかというようなところがございますけども、現在校区再編につきましてもいろいろ、気高地域でありますとかそういうところで動いております。他の地域もいろいろと話がありますが、そこでもやはり子どもたちの交通手段、通学の方法ということではやはりこの市長部局との連携、公共交通を使うであるとか、そういうところで出てきますので、連携は大変必要だなというふうに思っております。

またこれは鳥取県内の4市の教育長会ってというのがありましてそこで話題に出るのが、この素案の中にも17ページ、不登校の関係のことが話題になります。国も鳥取県も、それぞれやはり毎年出現率が上がっており、なかなか人数が減らないということでもあります。

しかしこれははっきり言って教育委員会、学校の現場だけの問題ではなくて、よく言いますのは、これ、社会全体の問題だよねと。ですから家庭環境であるとか地域の状況であるとか、そういうところに関係するってことであればやはり行政の面で市長部局である福祉サイドであるとか、子ども関係部局というふうなところもしっかり連携をとりながら今後の子どもたちのいろんな多様な学びに対応できるようなことも連携しながら、取り組んでいく必要があるかなというふうに思っておりますので、ちょっと感想といいますか私の意見を述べさせてもらいました。

どうぞ今後ともよろしく申し上げます。以上です。

(深澤市長)

はい、どうもありがとうございました。それでは以上をもちまして、総合教育会議を終了させていただきたいと思っております。最後に事務局の方で申し上げます。

5 閉 会

(副教育長)

はい。ありがとうございました。

本日の会議につきましては、速やかに議事録を作成しまして、鳥取市の公式ホームページに掲載いたしますので、よろしくお願いをしたいと思います。

それでは、これをもちまして、総合教育会議を閉会させていただきます。皆様本日はどうもありがとうございました。

閉会 15時15分